

『ラシーヌの雅歌』のカナふりバージョンをお送りします。

「トゥ」なのに「テ」と発音したり、「ヌ」なのに「ネ」と発音してしまったりするような基本的な間違いを避けてもらいたいと思って作りました、そのほかは「これは守るべき」ということをメモ書きで入っていますが、歌唱の上での注意は石塚先生にしたがってください。以下、簡単に解説します。

赤丸で囲っているところは深く、あるいは大きめの口で、青丸で囲っているところは軽く、あるいは強く読まない、ということです。an, en などのアンは深く発音し、Divin の in や maintenant の ain は口をイを発音するように横に開いてアンと発音してください。

鼻母音はあまり難しく考えなくていいと思います。敢えて言えば、「かんだ」と発音するときの「ん」のように舌をすぐにつけず、「ほんごう」と発音するときの「ん」のように舌が上につかず、またそのまま口を閉じずにアンと言おうとすれば、口の中で（あまり鼻は意識しなくて良いと思います）「ん」を響かすしかなく、それが鼻母音になります。

ou と、語尾の e はどちらも「ウ」と表記せざるを得ませんが、ou の場合は舌を奥にしてはっきり「ウ」と発音し、e の場合は、くちびるの周りには力を入れず、軽く丸めて「ウ」と言ってください。

maintenant の te は通常のフランス語では母音はなく [t] だけですが、音符が振ってあるので歌わなければならない、くちびるに力を入れず、軽く「ウ」と発音していただきたいです。そのほか te bénir の te、silence の ce、jette の語尾の te も同じです。

sur の発音は、もともとフランス語のアルファベットで u の文字の読み方に [s] が付くだけで、後ろの r は発音が難しい方は無理して読まなくいいと思います。

u の発音は、通常は次の手順でやってもらっています。まず思い切り口を平べったくして「イ」と言ってみてください。その時の舌の位置と歯の位置をほとんど動かさなくてくちびるをつぼめて発音してください。狭い「ユ」みたいな音になると思いますが、それに s をちうけて su です。r の発音は時間がなくて巻いている時間がないので、フランス語式の [ʀ]（のどの奥をかすかに震わす）しかないと思いますが、言わなくても大丈夫でしょう。

やや難しいのは Sauveur の eu [œ] ですが、1 か所しかないし、短い音で r を言っている暇もほとんどないので、「ア」でいいかなと思います。私が教える時は、「広いエ [ε] の口の形を作って、くちびるを広い「ア」と広い「ウ」の中間くらいにする」という言い方をしますが、思い切り開いて「ア」と言わないでくださればいいと思います。ただ、これが美しく発音できると抜群です（笑）

feu, les yeux, des cieux の eu [ø] はそれより狭いので、「ウ」でいいかなと思います。これも私が教える時は、上と対照的に「狭いエ [e] の口の形を作って、くちびるを「ウ」の形に近づける」と言っています。e の時の発音より舌を前に出して下の歯に乘せる感じでいいかと思っています。

eu の区別は難しいので（日本人のフランス語教師でも下手な人はたくさんいます）、気にしすぎないでよろしいかと思っています。みなさんで声を揃えて歌えれば、嬉しいです。（太原）